# 地域を取り巻く現状について

市民協働推進課・福祉総務課

## 目 次

(1)	社会情勢の変化	1
(2)	社会福祉法の一部改正	3
(3)	人口推計等の状況	6
(4)	市民アンケート結果	12
(5)	町田市内NPO法人·市民活動団体実態調査	21
(6)	地域経営ビジョン 2030 の振返り	24
(7)	第3次町田市地域福祉計画の振返り	24
(8)	まちだ〇ごと大作戦 18-20 の状況	26
(9)	福祉分野における個別計画の主な現状と課題	28
(10)	困りごとの複雑化・複合化に関する 相談支援機関へのヒアリング結果	29
(11)	タウンミーティング等での主な市民意見	29
(12)	相談機関アンケートでの主な意見	30

### (1) 社会情勢の変化

全国的な人口減少、少子高齢化、ICTやAIをはじめとするテクノロジーの進展等に伴い、人々のライフスタイルや価値観が多様化し、人づきあいや地域のあり方に変化が生じています。また、リモートワーク、ワークシェアリングをはじめとする新たな働き方の浸透やグローバル化が進むことなどで、地域だけでなく、社会構造そのものが変化していくことが見込まれます。

### 合計特殊出生率の推移

出典:厚生労働省「人口動態統計」

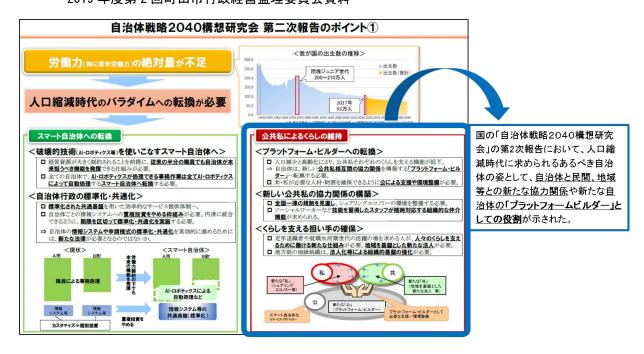


### 町田市将来人口推計



### 人口縮減時代のパラダイムへの転換

出典:自治体戦略 2040 構想研究会「自治体戦略 2040 構想研究会第二次報告」 2019 年度第 2 回町田市行政経営監理委員会資料



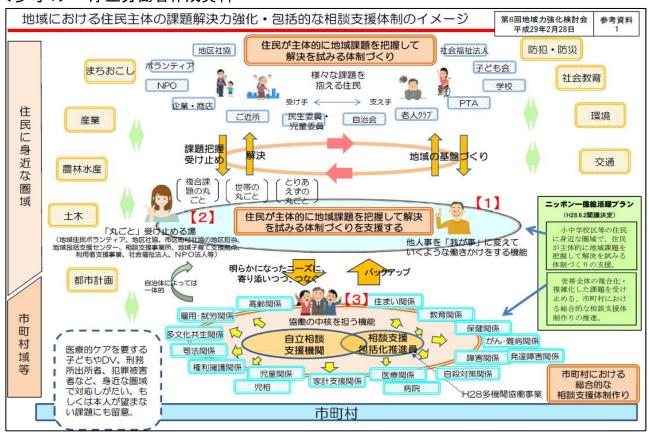
### (2) 社会福祉法の一部改正

### ① 2018年の改正

国は、少子高齢・人口減少社会の課題から直結する国全体の経済・社会の存続の危機を乗り越えるため、子ども・高齢者・障がい者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共につくり高め合うことのできる「地域共生社会」の実現を目指すため、2018年に社会福祉法の一部を改正しました。

2018 年の社会福祉法の一部改正では、主に<u>(1)地域共生社会の実現に向けた地域福祉の理念として、地域住民等は、福祉サービスを必要とする地域住民及びその世帯が抱える様々な分野にわたる地域生活課題を把握し、その解決に資する支援を行う関係機関との連携等によりその解決を図ること、(2)市町村は、地域住民等及び地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制を整備するよう努めること、(3)市町村は、地域福祉計画の策定に努めるとともに、福祉の各分野における共通事項を定めることなどが規定されています。</u>

### <参考1> 厚生労働省作成資料



### <参考 2>

〇社会福祉法(平成15年4月施行)

第107条(市町村地域福祉計画)

市町村は、地方自治法第2条第4項の基本構想に即し、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画(以下「市町村地域福祉計画」という。)を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、住民、地域福祉を目的とする事業を経営する者その他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるとともに、その内容を公表するものとする。

- 1 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
- 2 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
- 3 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

### 〇改正社会福祉法(平成30年4月施行)

第 107 条(市町村地域福祉計画)

市町村は、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画(以下「市町村地域福祉計画」という。)を策定するよう努めるものとする。

- 1 地域における高齢者の福祉、障害者の福祉、児童の福祉、その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項
- 2 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
- 3 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
- 4 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項
- 5 前条第一項各号に掲げる事業を実施する場合には、同項各号に掲げる事業に関する 事項※

#### ※106条の3

市町村は、次に掲げる事業の実施その他の各般の措置を通じ、地域住民等及び支援関係機関による、地域福祉の推進のための相互の協力が円滑に行われ、地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制を整備するよう努めるものとする。

### ② 2020年の改正

国は、2018年に社会的孤立を含む「地域生活課題」を解決できる体制を整えるよう 社会福祉法の一部を改正したが、これを押し進め、地域共生社会の実現を図るため、 2020年6月においても社会福祉法の一部を改正しました。

この改正では地域住民等の複雑化・複合化した支援ニーズに対する包括的な支援体制を構築するため、I「相談支援(市町村による断らない相談支援体制)」、II「参加支援」、II「地域づくりに向けた支援」を実施する事業「重層的支援体制整備事業」を創設し、2021 年 4 月から実施する。これらの全てに取り組む市町村に対して、関連事業に係る補助等について一体的な執行を行うことができるよう交付金を交付することとしています。

「断らない相談支援」では属性や年齢を問わずに相談を受け止め、関係機関との協働を進め、「参加支援」は就労、学習など多様な形の社会参加を促し、「地域づくり」は交流や参加の機会を増やします。ここでは、引きこもりなど制度の狭間で孤立した人や家庭を把握し、伴走できる体制をつくり、困りごとの解決を目指すだけでなく、社会との

つながりを取り戻すことで困りごとを小さくするような関わりを重要視しています。

事業全体 I 相談支援 (市町村による断らない相談支援体制) Ⅲ 地域づくりに向けた支援 新 アウトリーチによる 多文化 共生 支援など継続的な 學學 消費者相談 伴走支援の機能 若年者 観光 相談支援関係者へ 相談支援機関B 保健・医療 多分野協働の 連携・つなぎ プラットフォーム 相談支援機関A 教育 地方創生 まちづくり 調整 相談支援機関C 環境 多機関協働の中核の機能 地域住民 地域づくりをコーディ 調整 ネートする機能 就労支援 場や居場所の機能 日常の暮らしの中での支え合い 居住支援 居場所 コミュニティ (サークル活動等) 狭間のニーズにも対応する参加支援を強化 居場所をはじめとする多様な 場づくり Ⅱ 参加支援(つながりや参加の支援)

<参考3>厚生労働省作成資料「重層的支援体制整備事業」のイメージ

### <参考 4>

### 〇改正社会福祉法(令和3年4月施行)

### 第4条(地域福祉の推進)

地域福祉の推進は、地域住民が相互に人格と個性を尊重し合いながら、参加し、共生 する地域社会の実現を目指して行われなければならない。

### 第107条(市町村地域福祉計画)

市町村は、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画(以下「市町村地域福祉計画」という。)を策定するよう努めるものとする。

### 1~4(略)

5 地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制の整備に関する事項

### (3) 人口推計等の状況

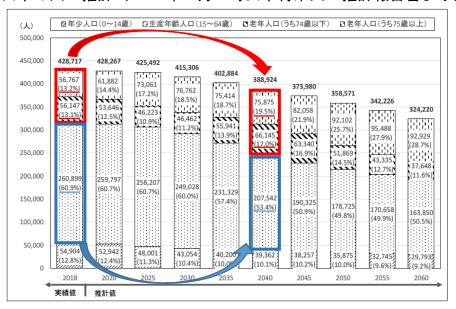
### ① 町田市の人口

町田市の人口推計によると、2018年の町田市の総人口 42万9千人が、2040年には38万9千人と40万人を下回ることが見込まれ、うち高齢者数は2018年の11万3千人、高齢化率26.3%が、2040年には14万2千人、36.5%になることが見込まれています。また、生産年齢人口は、2018年の26万1千人、総人口に占める割合60.9%が、2040年には20万8千人、53.4%と、構成比が60%を下回る見込みです。

人口ピラミッドにおける男女別の 5 歳階級別人口をみると、2020 年は男女ともに 40 歳 ~54 歳がボリュームゾーンを形成していますが、2040 年には 60~74 歳がボリュームゾーンとなる見込みです。

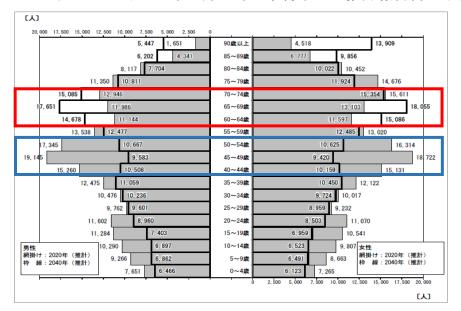
このことから、生産年齢人口の減少による市税収入の減少、及び高齢化率の上昇に伴う社会保障費の増大等が考えられます。

### ■町田市の人口推計(2019年3月 町田市将来人口推計報告書より)





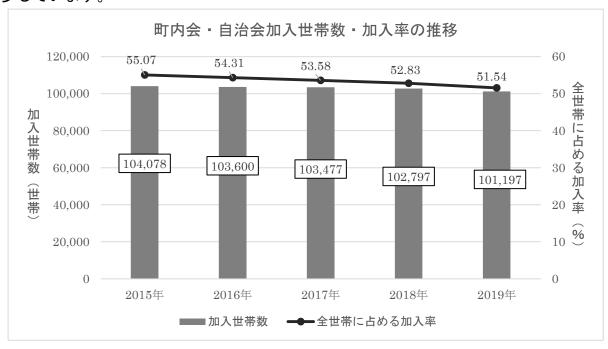
### ■人口ピラミッド(2019年3月 町田市将来人口推計報告書より)





### ② 町内会・自治会の加入世帯数

町田市の町内会・自治会の加入世帯数(全世帯に占める加入率)について、2015年は10万4千世帯(55.07%)であったものの、2019年には10万1千世帯(51.54%)までに減少しています。



### ③ 地区協議会の構成団体及び地区活動参加者数

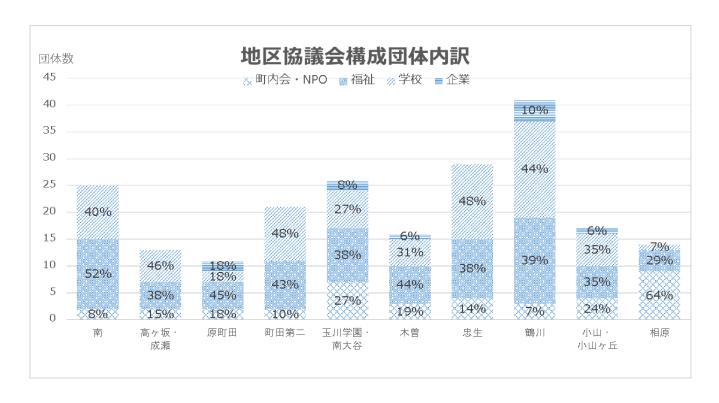
10 地区に設置された地区協議会の構成団体の内訳をみると、福祉関係と学校関係の団体が多くを占めています(表に構成割合追加)。

5地区では、企業が構成団体に加わっています。

また、地区協議会を母体として地区活動に参加している方は、年々増加し、累計 6 千人を超えています。

### ■地区協議会構成団体内訳(2019年度)

	南	高ヶ坂・ 成瀬	原町田	町田第二	玉川学園· 南大谷	木曽	忠生	鶴川	小山・ 小山ヶ丘	相原
町内会・NPO	2	2	2	2	7	3	4	3	4	9
福祉	13	5	5	9	10	7	11	16	6	4
学校	10	6	2	10	7	5	14	18	6	1
企業	0	0	2	0	2	1	0	4	1	0
合計	25	13	11	21	26	16	29	41	17	14

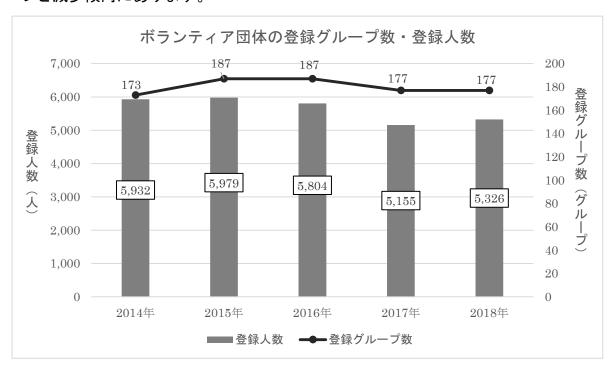


### ■全地区活動参加者数の推移



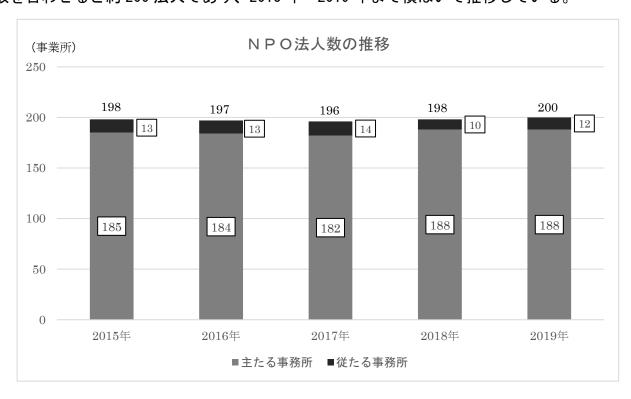
### ④ ボランティアの登録グループ数・登録人数

地域の担い手となる町田市のボランティアセンターへ登録のあるボランティアは、2015年の登録人数6千人、グループ数187グループが、2018年には5千3百人、177グループと減少傾向にあります。



### ⑤ NPO法人の数

町田市に主たる事務所を置くNPO法人と町田市に従たる事業所を置くNPO法人の数を合わせると約200法人であり、2015年~2019年まで横ばいで推移している。



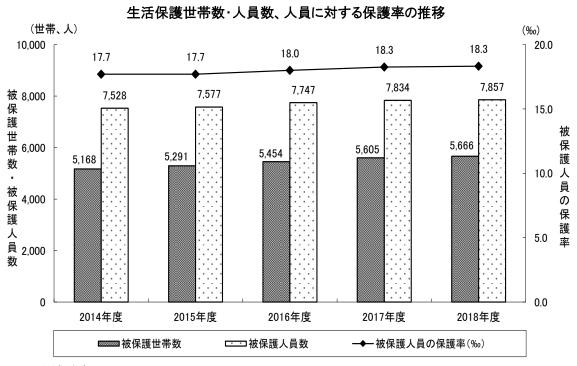
### ⑥ 民生委員

町田市全域での民生委員は、いずれの年度にも欠員がいます。地域の担い手である民 生委員数は若干の上下はありながらも減少傾向にあり、2019 年度末には直近 15 年で最 低となる 201 人となっています。



### ⑦ 生活保護

町田市の生活保護世帯数、保護率は2017年度以降、ほぼ横ばいで推移しています。



出典:町田市統計書(月平均)

※保護率の‰(パーミル)は、人口1,000人対(外国人を含む)

### 8 虐待

町田市の高齢者虐待件数は、2019年度は49件となっています。

児童虐待の新規相談件数は、2015 年度の 410 件から、2019 年度の 845 件に倍増しています。

また、障がい者虐待の通報件数は、2019年度は21件となっています。

### 高齢者虐待件数の推移

(件)

Ī	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
Ī	36	32	49	46	49

出典:町田市高齢者福祉課

### 児童虐待に関する新規相談件数の推移

(件)

2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
410	465	497	620	845

出典:町田市子ども家庭支援センター

### 障がい者虐待の通報件数の推移

(件)

2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
21	19	18	32	21

出典:町田市障がい福祉課

### (4) 市民アンケート結果

### 【調査概要】

調査目的: 市民の地域生活課題やニーズ等を調査し、「(仮称) 第4次町田市地域福祉計画」

策定の基礎資料を得る。

対 象 者:市内在住の 18歳以上(2019年4月1日現在)の男女 2,000人

抽出方法:住民基本台帳(外国人含む)に基づく無作為抽出

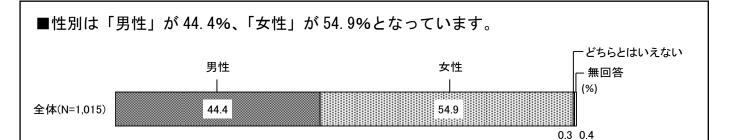
調査期間: 2020年2月13日~3月5日

調査方法:郵送法

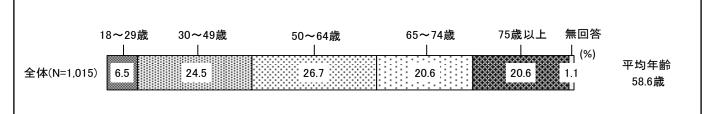
回収状況:回収数1,015件(回収率50.8%)

### 【主な結果】

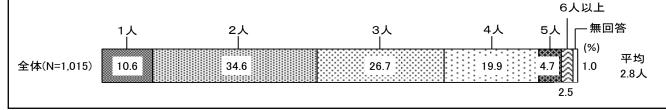
①基本属性



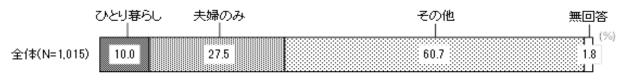
■年齢は、平均が58.6歳であり、65歳以上の高齢者が41.2%となっています。



■同居家族の人数は「2人(34.6%)」が最も多く、「3人(26.7%)」「4人(19.9%)」が続いており、平均2.8人です。



■同居家族の人数と種類から分類した家族構成は、「ひとり暮らし」が 10.0%、「夫婦のみ」が 27.5%となっています。

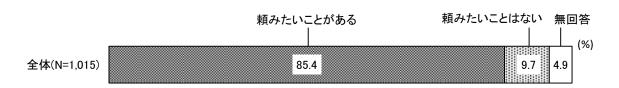


### ②地域における助け合い・支え合いの意向

「病気や事故で日常生活が不自由になったときや高齢になったときに地域に頼みたいことがある」と回答した人の割合は 85.4%と高いうえに、「地域のためにできることがある」と回答した人の割合も 87.2%と高いことから、地域における助け合い・支え合いを必要とする人の割合は高いと考えられます。

地域に頼みたいことの具体的な内容では、『災害時避難の手助け』、『具合がよくない時に、病院や市役所などに連絡』、『日常での安否確認の声かけ』の割合が高くなっています。一方地域のためにできることの具体的な内容では『日常での安否確認の声掛け』『具合が良くない時に、病院や市役所などへの連絡』『災害時避難の手助け』などの割合が高くなっています。

- ■病気や事故で日常生活が不自由になったときや高齢になったときに地域に<u>頼みたいこと</u>がある。
  - 頼みたいことの有無



頼みたいことの割合

										(%)
			か日	ごち	や食	外	子	話	災	連病具
			け常	みよ	洗 事	出	ど	L	害	絡院合
			で	出っ	濯を	の	ŧ	相	時	やが
			0	しと	の作	手	の	手	避	市良
			安	し	手つ	助	遊	ゃ	難	役く
			否	た	伝た	け	び	相	の	所な
			確	買	いり		相	談	手	ない
			認	い	•		手	相	助	ど時
			0	物	掃			手	け	へに
			声	や	除					の `
全体	<b>*</b>	(N=1, 015)	62. 2	45. 5	30. 9	38. 0	18. 7	43. 2	75. 6	64. 2
	18~29歳	(n= 66)	59. 1	42. 4	28. 8	37. 9	36. 4	50. 0	81.8	69. 7
年	30~49歳	(n= 249)	72. 3	55. 0	39. 4	51.0	42. 2	61.4	88. 4	77. 1
代	50~64歳	(n= 271)	64. 6	49.8	36. 9	45. 8	12. 9	42. 4	80. 4	69. 4
別	65~74歳	(n= 209)	63. 2	46. 9	30. 6	34. 4	8. 1	36.8	69. 4	59.8
	75歳以上	(n= 209)	47. 4	28. 7	14. 8	17. 2	4. 3	27. 8	59. 3	45. 9

(%)

- ■高齢、障がい、子育てなどで困っている方がいた場合、頼まれたらできることがある。
  - 頼まれたらできることの有無



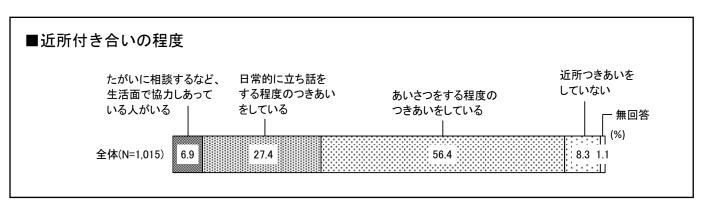
頼まれたらできることの割合

									(%)
		か日	ごち	や食	外	子	話	災	連病具
		け常	みよ		出	ど	し	害	絡院合
		で			の		相		やが
			しと						市良
		安	し						役く
					け				所な
			1	いり、		相			ない
				+⊒		于	伯工		ど時
							<del></del>	()	へに
		Э	1/3	防					0)
<b>k</b>	(N=1, 015)	75. 7	60. 3	22. 5	38. 2	37. 8	56. 6	66. 4	68. 7
18~29歳	(n= 66)	66. 7	56. 1	31.8	43. 9	56. 1	63. 6	75. 8	72. 7
30~49歳	(n= 249)	81. 9	67. 5	28. 9	42. 2	55. 4	64. 7	81.9	79. 9
50~64歳	(n= 271)	78. 6	63. 1	23. 2	42. 4	38. 0	55. 0	75. 6	71. 6
65~74歳	(n= 209)	82. 8	68. 4	22. 5	41. 6	32. 1	59.8	63. 2	70. 8
75歳以上	(n= 209)	59. 8	42. 1	11.0	23. 9	17. 2	44. 0	37. 8	48. 8
	18~29歳 30~49歳 50~64歳 65~74歳	18~29歳     (n= 66)       30~49歳     (n= 249)       50~64歳     (n= 271)       65~74歳     (n= 209)	け常での安容確認のの声   1 を	け常での安容には、	け常での安容には、	け常での安容のの安容のの方面       みより混をの作りでの作うにいり、掃除         (N=1,015)       75.7       60.3       22.5       38.2         18~29歳 (n= 66)       66.7       56.1       31.8       43.9         30~49歳 (n= 249)       81.9       67.5       28.9       42.2         50~64歳 (n= 271)       78.6       63.1       23.2       42.4         65~74歳 (n= 209)       82.8       68.4       22.5       41.6	け常での安容のの安容のの方面       みよりにしたの作業をの作りにいり、協力の存在でのの方面       洗事の作業をの作業をの作業をの作業をのの方面を対した。       出のの手助けます。         18~29歳 (n= 66) 66.7 56.1 31.8 43.9 56.1 30~49歳 (n= 249) 81.9 67.5 28.9 42.2 55.4 50~64歳 (n= 271) 78.6 63.1 23.2 42.4 38.0 65~74歳 (n= 209) 82.8 68.4 22.5 41.6 32.1	け常での安容の安全のの生産を含める。       みよりとしたの作業の作業を表現した。 は、り、物を含める。       洗事の作業を表現した。 は、り、の作業の作業を表現した。 は、り、のの作業を表現した。 は、り、物を、物を、は、り、物を、は、り、のののののでは、は、り、のののでは、は、り、のののでは、は、り、ののでは、は、り、ののでは、は、して、は、り、ののでは、は、して、は、り、ののでは、は、して、は、り、ののでは、は、して、は、り、は、り、は、り、は、り、は、り、は、り、は、り、は、り、は、り、は、	はでのの安容のの安容のの方面を表します。       みよりでのの作業を表します。       洗事の作業のの作業を表します。       出のの作業を表します。       出のの作業を表します。       出のの作業を表します。       出版のの作業を表します。       出版ののによります。       出版とのの作業を表します。       出版とのの作業を表します。       出版とのの作業を表します。       出版とのの作業を表します。       出版とのの作業を表します。       出版とのの作業を表します。       出版とののによります。       出版とののによります。       出版とののによります。       出版とののによります。       によります。       によります。

### ③近所付き合いの程度と住民どうしの協力関係

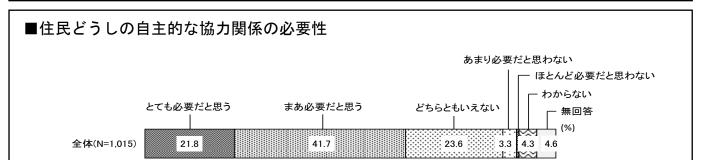
近所付き合いをしていない人は 8.3%にとどまっており、ほとんどの方が何かしら近所 との関係性を持っています。立ち話をする程度、あいさつをする程度の付き合いをしてい る人のほとんどは、今後について現状かそれ以上深い近所付き合いを希望しています。ま た、近所付き合いをしていない人の約 6 割が今後の近所付き合いを希望しています。

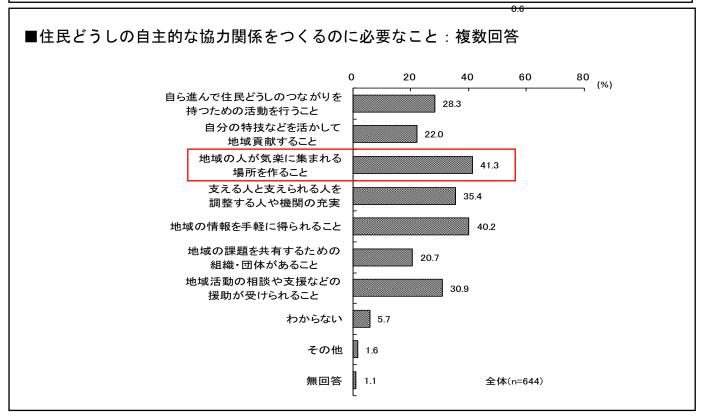
さらに、住民どうしの協力関係は 63.5%の人が必要と感じており、そのために必要なことは「地域の人が気軽に集まれる場所をつくること」「地域の情報を手軽に得られること」「地域活動の相談や支援などの援助が受けられること」が多くなっています。



### ■今後希望する近所付き合いの程度【現在の近所付合いの程度別】

(%) 回答者 互いに 立ち話 あいさ 無回答 近所つ 数 つをす 相談 をする きあい 今後 等、生 程度の る程度 をして つきあ 活面で のつき いない 協力し いをし あいを あって ている してい 現在 いる 全体 1,015 14.1 39. 8 35.0 2.2 9.0 互いに相談等、生活面 近 5.7 5.7 70 77. 1 0.0 11.4 で協力しあっている 所 つ 立ち話をする程度のつ き 278 16.9 74. 1 0.7 0.4 7.9 問 きあいをしている あ 1 い 6 あいさつをする程度の ۵ 572 6.6 30.9 55.1 0. 2 7.2 つきあいをしている 程 度 近所つきあいをしてい 84 3.6 17.9 38. 1 23.8 16.7 別 ない 59.6%

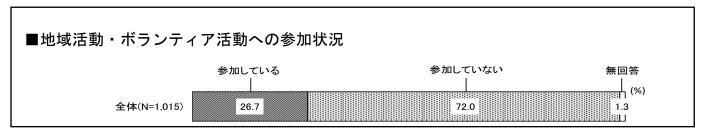




### ④地域活動やボランティア活動の参加状況

地域活動やボランティアに参加しているのは 26.7%と 4 人に 1 人程度であり、参加していない理由は「忙しいため」が最も高くなっています。参加していない人に、活動に参加しやすくなる条件をたずねたところ、「家の近く」「ともに活動する仲間や友人がいること」「わずかな時間(1時間未満)でできる」が多くなっています。また、地域活動をする範囲は、「隣近所」と「町内会・自治会区」とを合わせると 6 割弱となっています。

このことから、忙しいなかでも、自宅の近くの範囲で、わずかな時間でできる地域活動やボランティア活動であれば参加しやすくなるということが分かります。



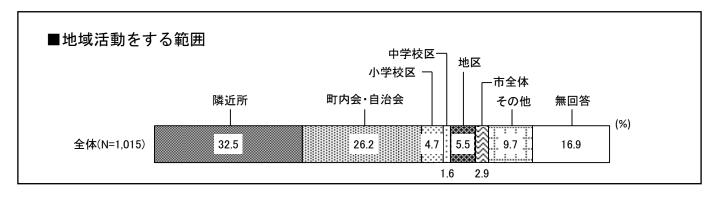
### ■地域活動・ボランティア活動へ参加しない理由:複数回答

	<地域活動やボランティアに参加していない人> (%)														
			入していないため町内会・自治会に加	忙しいため仕事・家事・介護で	かけがない、きっ	ない異味の持てる活動が	がない、情報活動したいが、情報	健康に自信がない	経済的な余裕がない	感じない参加するメリットを	できるか不安継続して活動に参加	がいない 身近に活動グループ	い話動場所が無い、遠	その他	無回答
全位	<u> </u>	(n=731)	17. 8	42. 0	13. 7	12. 4	12. 3	18. 1	10.0	10.8	18. 3	17. 1	4.4	8. 5	7. 1
	18~29歳	(n= 55)	23. 6		20. 0	14. 5	12. 7	5. 5	9. 1	18. 2	18. 2	20. 0	12. 7	5. 5	5. 5
年	30~49歳	(n=183)	24. 6	63. 9	12. 0	10. 9	13. 7	3. 8	8. 7	10. 4	14. 8	16. 9	2. 7	6.0	2. 7
代	50~64歳	(n=201)	16. 9	55. 2	10. 4	12. 9	12. 4	9. 5	13. 9	12.4	20. 9	18. 4	3. 0	8. 0	9.0
別	65~74歳	(n=136)	18. 4	28. 7	19. 1	14. 7	16. 2	31.6	9. 6	11.8	22. 1	15. 4	5. 1	5. 9	6.6
	75歳以上	(n=148)	8. 1	10.8	12. 8	10. 1	7.4	38. 5	5.4	5. 4	15. 5	16. 2	4.7	14. 9	11.5

### ■地域活動・ボランティア活動に参加しやすくなる条件:複数回答

<地域活動やボランティアに参加していない人> <sub>(9</sub>													(%)	
			友人がいることともに活動する仲間や	こと趣味や特技が活かせる	でも簡単にできること身体的負担が少なく誰	家の近くでできること	未満) でできることわずかな時間(1時間	謝礼金がでること	会があること知識や技術を学べる機	ダー がいること適切な指導者・リー	供があること活動についての情報提	その他	わからない	無回答
全亿	<u></u>	(n=731)	33. 0	18. 6	28. 6	34. 6	29. 7	5. 9	10.8	14. 8	21. 2	4. 0	11. 1	7.7
	18~29歳	(n= 55)	47. 3	29. 1	21.8	30. 9	25. 5	25. 5	20. 0	21. 8	32. 7	1.8	12. 7	3. 6
年	30~49歳	(n=183)	43. 7	16. 9	26. 2	37. 7	39. 3	4. 4	13. 1	13. 1	21. 9	3. 3	8. 7	3. 3
代	50~64歳	(n=201)	29. 4	18. 9	27. 4	27. 9	33. 3	8. 0	9. 5	17. 4	21. 4	3. 5	11. 9	3. 5
別	65~74歳	(n=136)	33. 1	20. 6	33. 1	47. 8	31. 6	1. 5	11.0	14. 0	20. 6	2. 2	7. 4	8.8
	75歳以上	(n=148)	20. 9	14. 9	32. 4	29. 7	13. 5	1.4	6.8	11. 5	17. 6	8. 1	14. 9	17. 6

ノルザスシャン・ファクロンカーマンカン



### ⑤地域生活における困りごとの状況

毎日のくらしのなかでの困りごとについて、健康、子育て、介護、経済的、住まいの5 項目で、1 項目でも困りごとがある人は 56.9%、2 項目以上ある人は 29.7%、3 項目以上 ある人は13.3%となっており、困りごとの複合化が見られます。この中で、ダブルケア(子 育てと介護)で困っている人は、2.0%となっています。困りごとの内容で 25%を超えた のは「健康のこと」「経済的なこと」「住まいのこと」となっています。

また、悩みごとや困りごとを相談できる人が「いない」のは 16.2%となっており、その 割合は性別にみると、男性で 22.6%、女性で 11.1%となっております。

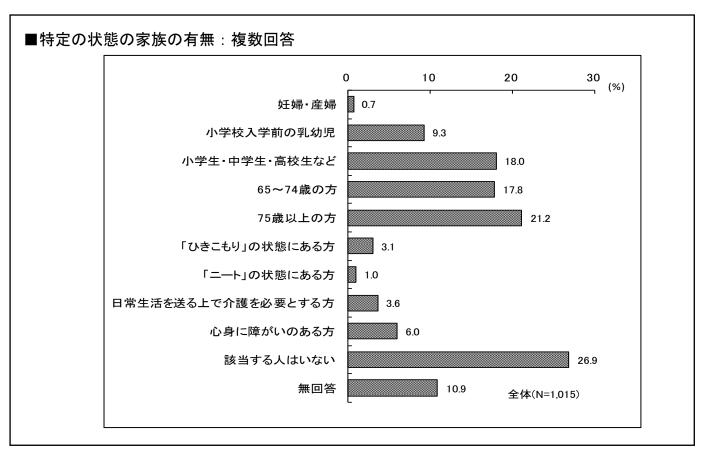
さらに、家族がひきこもりの状態にあると回答した方は3.1%(31人)となり、年齢は 20歳代が5人、30歳代が6人、40歳代が6人、50歳以上が7人となっています。

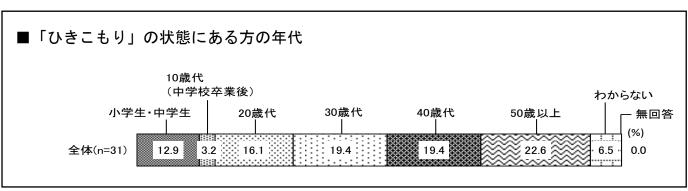
(参考) 2018年の内閣府「生活状況に関する調査」ひきこもりの40~64歳:1.45%(推計 61.3万人)

■困りごとの項目数くいずれかの項目で困りごとがある数。	と組み合わせ>
-----------------------------	---------

悩みごとの項目数	該当する項目	N	%
0		402	39.6
1		277	27. 3
	介護	25	2. 5
	経済	60	5. 9
	健康	101	10. 0
	子育て	32	3. 2
	住まい	59	5. 8
2		166	16. 4
	介護、経済	8	0.8
	介護、住まい	8	0.8
	経済、住まい	44	4. 3
	健康、介護	8	0.8
	健康、経済	34	3. 3
	健康、子育て	10	1.0
	健康、住まい	23	2. 3
	子育て、介護	2	0. 2
	子育て、経済	17	1. 7
	子育て、住まい	12	1. 2
3		121	11. 9
	介護、経済、住まい	5	0. 5
	健康、介護、経済	8	0.8
	健康、介護、住まい	6	0. 6
	健康、経済、住まい	74	7. 3
	健康、子育て、介護	1	0. 1
	健康、子育て、経済	11	1.1
	健康、子育て、住まい	1	0.1
	子育て、介護、経済	3	0.3
4	子育て、経済、住まい	12	1.2
4		7	0.7
	健康、子育て、介護、経済	3	0. 3 0. 2
	健康、子育て、介護、住まい 子育て、介護、経済、住まい	2	0. 2
5	子育て、介護、経済、住まい	7	0. 2
9	健康、子育て、介護、経済、住まい	7	0. 7
無回答	健康、子育で、月霞、経済、住まい	35	3. 4
		1, 015	100.0
		1, 013	100.0
	健康	289	28. 5
	子育て	124	12. 2
	介護	111	10. 9
項目別計	経済	288	28. 4
	住まい	255	25. 1
	ダブルケア (子育てと介護)	20	2. 0

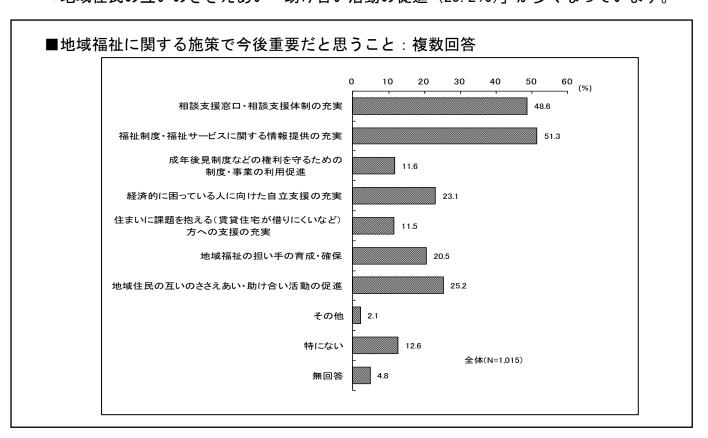
	健康	289	28. 5
	子育て	124	12. 2
ᅲᄆᆔᅱ	介護	111	10. 9
項目別計	経済	288	28. 4
	住まい	255	25. 1
	ダブルケア (子育てと介護)	20	2. 0





### ⑥地域福祉に関する施策で今後重要だと思うこと

地域福祉に関する施策で今後重要だと思うことは、「福祉制度・福祉サービスに関する情報提供の充実(51.3%)」と「相談支援窓口・相談支援体制の充実(48.6%)」についで、「地域住民の互いのささえあい・助け合い活動の促進(25.2%)」が多くなっています。



⑦「互いにささえあい、自分らしく、くらし続けることができるまち」にするための意 見について自由回答で尋ねました。

### 【主な回答】

- サークル活動の内容や、存在を周知する方法を増やしてほしい。
- ・自分は学生で、良く町田駅周辺の施設も利用するのですが、町田でどのような活動しているのか、まったく知りませんでした。そこで最近学生に人気なSNS等でもっと注目を集められるようなことができると、もっと町田の素敵な活動を知ることができるのではないかな、と思いました。
- せっかく一人一台スマホを持つ時代になったので、SNSなりホームページを見やすく、わかりやすくするなりしてほしい。
- どのような福祉サービスがあり、どのような相談が受けられるのか、具体的で誰にでもわかりやすい情報の発信を希望します。
- ・ 自分のできる範囲で何か人の助けになりたい、役に立ちたいと考えている人は結構多いと思います。その思いをうまく利用できるシステムがあるとよいかもしれません。
- ・ 藤の台団地に住んでいますが、自治会ニュースを発行して親睦を図ったり、1 時間 500 円で手助けをしてくれて助かっています。
- ・ 近所にはご高齢の方が多いですが、一人暮らしなのか、家族がいるのか等は分からず、 困りごとがあったらできることは協力したいと思いますが、なかなか自分から声をか けることは難しいです。

- ・ まだ子育て世代ですが、働きながら子どもが病気になって、熱で保育園に行けなくて 困っている時に、病児保育室は何度もお世話になりました。
- ・ 子どもたちが自由に活動できるような安心できる街づくりをしてほしい。現在の家庭 に起こる虐待や放ったらかしのようなことがない地域を作りたい。
- ・ 自分の得意なことを生かしてボランティア活動ができるようにするため、募るのが大事だと思う。どのようにボランティア活動をしたらよいか、新しいアイデアを出したいけど、どこに出せばいいかわからない。
- ・ 犬の散歩や短時間子供の面倒を見るなど、手伝える人はたくさんいると思う。それを 必要としている人と、手伝える人をつなぐシステムがあればいいと思う。
- ・ どうしたら参加する気にさせるかが必要だと思う。見て聞いて知ってはいいが、参加 するという人が少ないと思う。
- ・ 現役会社員のため日々多忙で、地域や自治体の活動やボランティアに参加したいと思っても、自ら活動団体を検索する時間まではありません。普段目につく場所に案内があれば良いと思います。
- ・ 自治会役員や地区役員が継続して同じ担当者である。マンネリ化して毎回ワンパターン進歩が否めず。新しい住民の若手アイデアを求め、住みやすい方向にするべく指導ください。
- ・ 自治会加入者を増して、人間関係を結ぶことが重要と思います。

### (5) 町田市内NPO法人·市民活動団体実態調査

### 【調査概要】

調査目的:町田市内のNPO法人をはじめとする市民活動の活性化に向けて、団

体の現状やニーズを把握し、各団体の活動しやすい環境整備や適切

な支援を進めていくこと。

対 象:町田市内のNPO法人及び「まちカフェ!」に出展している市民活動

団体 196 団体

回答状況:回収数 88 団体(回収率 44.9%)

### 【主な結果】

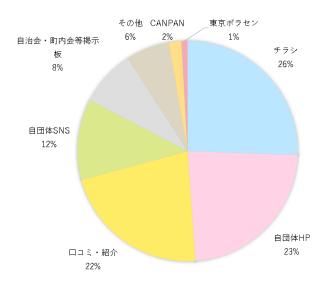
① 町田市内のNPO法人における活動分野 (NPO法上の 20 分野) について ※複数選択可

<2019年12月1日時点>



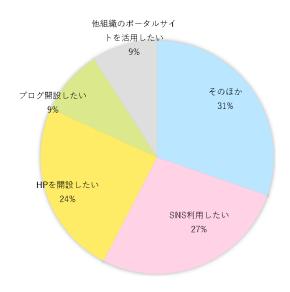
保健医療が一番多く、次いで社会教育分野、子どもの健全育成と続いています。

### ② 団体周知やイベント等の広報活動で実施しているもの ※複数選択可



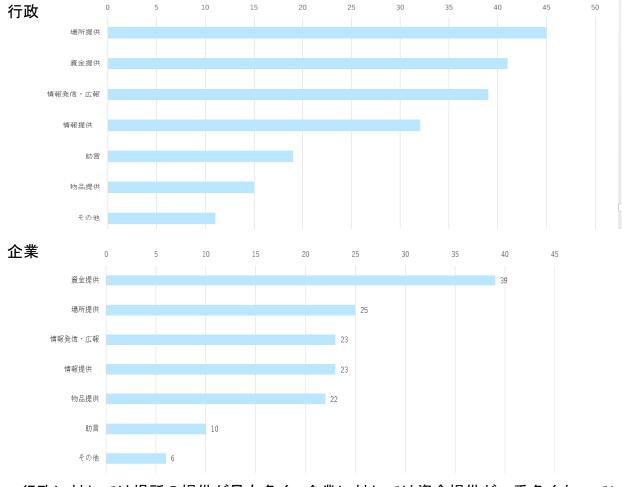
- 広報活動では、チラシ、ホームページで約49%となっています。
- ・SNSを活用している団体は12%と口コミ・紹介よりも少なく、まだ活用が進んでいません。

### ③ インターネット等の今後の利用意向について ※複数回答可



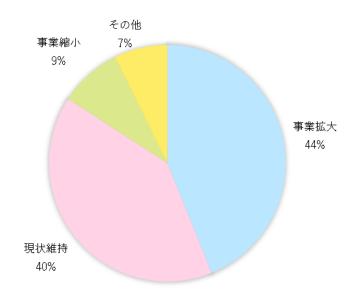
- ・SNSを利用したいという意向が27%となっています。
- ・そのほか 31%の主な記述内容として、メールマガジン、SNS(LINEなど)での広告、メーリングリストなどでした。

### ④ 行政、企業に期待することについて ※複数選択可



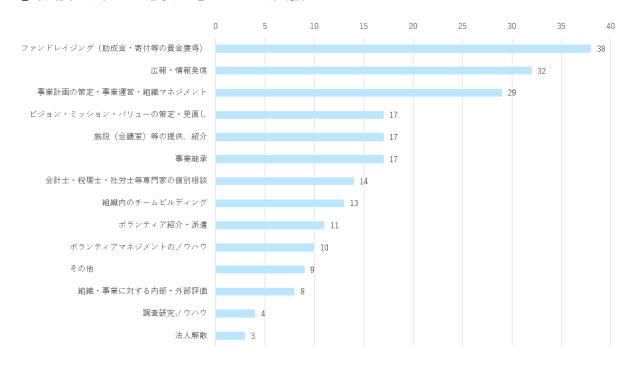
- ・行政に対しては場所の提供が最も多く、企業に対しては資金提供が一番多くなっています。
- ・企業に対してその他として、共同開発や技術提供との意見がありました。

### ⑤組織の今後について



- ・事業拡大を希望する団体が44%と最も多くなっています。
- ・利益を上げ、社員の待遇を良くしたい、限られたマンパワーに合った活動の範囲で努力し ていきたいとの意見がありました。

### ⑥活動するうえで必要と感じている支援について



・ファンドレイジング(助成金・寄付等の資金獲得)が最も多くなっています。

### (6) 地域経営ビジョン 2030 の振返り

地域と市がビジョンを共有し、協働による地域社会づくりを実現することを目的として、地域団体への支援体制の創設、地区協議会の活動支援の充実及び行政部署間の 連携の促進についての取り組みを行っています。

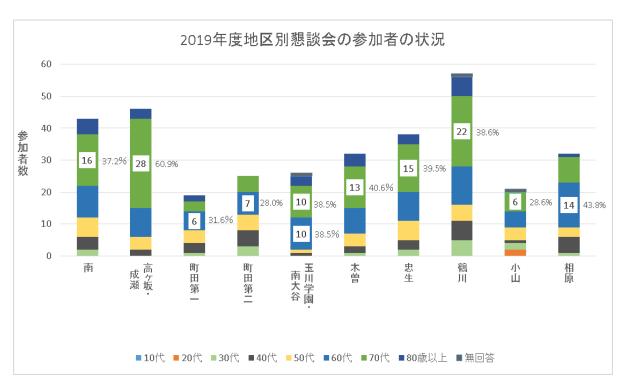
2019 年 3 月に高ヶ坂・成瀬地区協議会が設立し、市内全 10 地区に地区協議会が設立されたことで、地域の課題解決及び魅力発信に主体性を持って取り組む基盤が整いました。その後、2019 年 4 月に一般財団法人町田市地域活動サポートオフィスを設立し、地域の課題解決に取り組む団体に対する伴走支援を行う体制が整いました。

協働による地域社会づくりを実現するための地域の基盤や体制が整い、市内の各地で団体が強みや特性を活かし、連携・協力して課題解決を行っています。今後は、取り組みを継続していくことや、課題解決力の強化が求められています。

### (7) 第3次町田市地域福祉計画の振返り

第3次地域福祉計画では、地域の福祉課題の把握や解決に向けて取り組むための多様な主体の連携体制づくりを目的とし、町内会・自治会連合会10地区で、毎年度1回、地区別懇談会を実施しています。2019年度終了時点の地区別懇談会の参加者数は、「町田市5ヵ年計画17-21」の2021年度末で目標とする1,000人を超えた1,119人となっており、地域の課題解決に向けた話し合いが活発に行われています。この結果、地域において新たなつながりが生まれ、鶴川地区では2019年度に鶴川地区社会福祉協議会が設立し、相原地区でも人材バンクの立ち上げが見込まれるなど、他の地区も含め地域の連携体制が構築されつつあります。

一方、2019 年度の地区別懇談会の参加者は 60 歳以上が多く、40 歳以下の参加が少ない状況であり、参加団体には、NPO団体や社会福祉法人が見られるものの、企業等の参加がありません。幅広い世代の参加と企業の参加が課題となっています。また、地区別懇談会では地域の課題解決の方向性と具体的な取組みを話し合っており、次の段階としてそれらを実行していくことが課題となっています。



### <参考>地区別懇談会参加者数の推移

地区別懇談会の参加者数は、2019年度は382人で、過去3年間の平均参加者数は373人となっています。

(人)

地区名	2017年度	2018年度	2019年度
南地区	46	27	44
高ヶ坂・成瀬地区	47	42	52
町田第一地区	22	20	23
町田第二地区	40	36	38
玉川学園・南大谷地区	23	27	27
木曽地区	36	45	33
忠生地区	43	48	43
鶴川地区	49	56	63
小山地区	22	19	25
相原地区	47	42	34
合計	375	362	382

### <参考>地区別の今後の方向性と具体的取組(地区活動計画2018年度版)

<参考>地区別の今後の万円住と具体的取組(地区活動計画2010年度版)		
地区名	今後の方向性	具体的取組
南地区	・ 多世代が関わる子育で支援の 推進	・ 地域の団体と連携しながら、「地域情報誌の作成」「地域 資源の周知」「情報交換・情報共有」「多世代交流」を進 めていく
高ヶ坂・成瀬 地区	・ 地域のネットワークの構築	<ul><li>・地域で活動しているさまざまな団体間がつながり、互いに協力しあえる</li><li>・地域のイベントを通して団体同士がつながる機会を作り、新たな取組を創出する</li></ul>
町田第一地区	・ 地域資源の確認を行い、みんなで情報共有を行う	・ できるところから防災防犯などのマップづくりに取り組む
町田第二地区	<ul><li>無理なく気軽に地域の活動に 参加ができるよう、ラフなつなが りづくり</li></ul>	・地域のイベントなどの情報を SNS で発信し、気軽に情報 入手できるようにする ・若い世代や男性のつながりづくり ・町田第二地区を小エリアに分けた住民懇談会の実施
玉川学園· 南大谷地区	<ul><li>地域における見守り活動の推進</li><li>活動に参加したい人を活動につなげていくためのしくみづくり</li></ul>	<ul><li>子ども110番の家同士の横のつながりに向け、小規模での情報交換会の開催</li><li>ニーズを活動につなげる</li><li>マンパワー・推進員を設置する</li></ul>
木曽地区	日常生活支援(お助け隊)団体の立ち上げ     多世代交流の場づくり	・ 高齢者の知恵・経験を活かした交流の場(イベント)を開催し、継続・定着させる ・ 見守りの中から日常生活支援活動(御用聞き)へつなげる
忠生地区	・ 地域資源マップの作成	【社会福祉協議会】 ・ 忠生第1、2高齢者支援センター、障がい者支援センター、地域子育て支援センター、社会福祉協議会が資源を持ち寄り、地域資源マップを作成する ・ 関係機関のネットワーク(つながり)の構築

地区名	今後の方向性	具体的取組
		【高齢者支援センター】 ・ 各地域での小規模な地域支え合い会議を開催し、地域のネットワークづくりを行う
鶴川地区	・地区別懇談会のまとめを見て、 自分の所属団体や自分ができることを考え、気づきを促す ・各団体や活動につなげる ・各団体や地区協議会等、事業 につなげる	・地区別懇談会の後、アンケートや報告会の開催を行う ・模造紙の活動内容や連絡先等の参加者名簿を作成、 団体同士のつながりをつくる ・事例発表者への地区別懇談会の気づきをヒアリングし、 各団体や地区協議会の事業へのつながりを促す
小山地区	・ 地域住民と子育て世代との交流 ・ 情報提供の場を広げる	<ul><li>地区別懇談会を使った地域住民と子育て世代との交流と顔の見えるつながりをつくる</li><li>「子どもクラブ」にて異世代交流についての検討を行う</li><li>子育て世代が多い地域へのSNS発信等</li></ul>
相原地区	<ul><li>相原人材 BANK の立ち上げ</li><li>相原人材 BANK でのネットワークづくり</li></ul>	・相原人材BANKの立ち上げに向けて、運営団体や方法、 拠点等の詳細について検討する ・地区別懇談会を通じて相原人材BANKの周知を行う

### (8) まちだ○ごと大作戦 18-20 の状況

まちだ〇ごと大作戦 18-20 (以下「〇ごと大作戦」という) は、市制 60 周年の 2018 年から 2020 年までの 3 ヵ年 (新型コロナウイルス感染拡大の影響に配慮し、実施期間を 2021 年 12 月末まで延長) に、市内各地域で取組が「祭り」のように盛り上がる様子を継続的に市内外に情報発信し、「まちへの愛着・誇り」と「町田市への関心・憧れ」を醸成し、「住み続けたいまち」、「訪れたいまち」、「住みたいまち」となり、人口減少時代にあっても選ばれる都市を目指しているシティプロモーションの取り組みです。

コンセプトは「人と人、人と地域団体との新しいつながりから市民や地域団体の考える夢をみんなでカタチにし、次の世代へのレガシーを創り上げる交流感動都市まちだへ」です。

市民・地域団体・事業者などの多様な主体が、賛同者の知恵や応援を得て、地域の結びつきをより強めながら、自ら「やってみたい夢」を実現していくことで、次の世代に引き継がれる「新しい価値」を創り出し、市民活動・地域活動を盛り上げています。

多様な主体の取り組みを商工会議所や町内会・自治会連合会を中心とする市内 25 団体で構成するオール町田体制のまちだ〇ごと大作戦実行委員会(市は事務局)が情報発信や新しい人とのつながりづくりを支援しています。

2020 年 7 月 1 日現在、地域交流・福祉・子育て・文化・スポーツ・観光など、あらゆる分野の計 190 件の取組が実現し、それぞれの取組を通じて、新しい出会いが生まれ、お住まいの地域や町田市の魅力に、あらためて目を向ける機会ややってみたかった夢にチャレンジできる機会となっています。

○ごと大作戦では、人口減少時代に求められる新しい出会いやつながりから、市内 の各地域で新しい事柄が始まり、人の交流によって多くの市民の感動がつくられてい ます。

今後、持続可能な社会をつくっていくためには、市民自らが住んでいる地域を自慢し、市外の人たちに町田市や住んでいる地域をお勧めしたいという意欲がさらに高まっていく必要があります。〇ごと大作戦の取り組みのように市民が地域課題を共有し

て解決を目指す活動が広がり、新たな活力が生まれつづけることが重要です。市は引き続き、多様な主体とともに、世代や分野を超えて人がつながり、市民や地域の多様な主体が自分らしく生き生きと活動することができるよう、寄り添い、支えていくことが求められます。

### 【取り組み事例の紹介】

1 学生と地域が新たな賑わいを創出「竹あかりの街"あいはら、」

地域に多く自生する間伐竹を用いて〝竹灯籠〟をはじめとする竹のオブジェを地

域住民が学生と一緒に共同作業で製作し、JR 横浜線相原駅 前歩道に設置し、約 1 カ月間明りを灯しました。地域と学 生や大学との絆が強まり、地域住民や相原を訪れる人々に 「竹あかりの街"あいはら、」を印象付け、新たな人の交 流や独自性のある賑わいを創出しました。



2 非日常的な行事で地域課題解決を目指した作戦「町田木曽水かけ祭り」

タイの旧正月に行われる世界的に有名な水掛け祭りを模して、子どもからお年寄りまで一緒になって水を掛け合う非日常的なお祭りを地域の生活道路で行い、地域のつながりを深めました。作戦の背景には、①町内会自治会の会員数減少②地域のつなが

りの希薄化③子どもの遊び場の減少④消防団員の不足 ⑤少子高齢化などがありました。これらを義務的な行 事としてではなく、非日常的なワクワクする作戦とし て地域のチカラを結集し、準備から運営まで若い世代 と一緒に行い、将来の地域社会の在り方にチャレンジ しました。



3 地元自治会と福祉施設事業者が連携「鞍掛台買い物・外出支援プロジェクト」

外出に困っている高齢者等のために近隣の福祉事業者の送迎者とドライバーの空き時間を利用して地域の拠点となる成瀬コミュニティセンターと鞍掛台地区を周回する無料送迎車を運行している地域と福祉事業者のつながりを活かした取り組みです。鞍掛台地区は急な坂道が多く、バス停まで遠いことに加えて住民の高齢化が進み、外出が不便だという意見が住民の方から鞍掛台自治会に寄せられていました。そこで、自治会が中心となってプロジェクトチームをつくり、2018 年から約1 年かけて検討

を重ね、2019 年 3 月からは 1 年間の試行運行を実施、運行を重ねながら、住民へのアンケートや問題点の検証も行いました。取り組みを継続していくための改善を行い、2020 年 4 月からは利用者の利便性を拡大し、本運行を開始しました。



### (9) 福祉分野における個別計画の主な現状と課題

- ① (仮称) 町田市いきいき長寿プラン 21-23
  - (ア) 急速な高齢化に伴い増加する医療・介護連携や認知症支援等のニーズへの対応や、 介護が必要な状態を抑制(介護予防)する必要があります。
  - (イ) 介護保険の認定者数増に伴い、総事業費が増大する中においても、制度の持続可能性を確保するため、介護予防や給付適正化等を重点的に推進していく必要があります。
  - (ウ) 多様な高齢者の生活支援ニーズとして、<u>外出同行「(通院、買い物など) のほか、「見守り・声掛け」、「掃除・洗濯」のニーズが高い</u>傾向にあります。また、<u>「高齢者の生きがい支援等につながる居場所や出番づくりの推進」</u>が高い傾向にあります。
  - (エ) 介護職員の離職率は 2016 年度の 26.6%が 2018 年度には 19.0%と改善傾向にありますが、東京都平均は 18.7%、全国平均は 16.2%であることを考慮すると依然として厳しい状況であることから、介護人材の育成・確保・定着が課題となっています。
  - (オ) 独居高齢者や高齢者夫婦のみ世帯、認知症高齢者が増加していることから、<u>地域</u>による見守りのニーズの増加への対応が必要です。
  - (カ) 新旧住民の交流が少なく、高齢者になり転入してきた方が孤立するリスクが高い ことから、居場所の創出が課題となっています。
  - (キ) <u>町内会自治会等の地域活動の担い手が不足している一方で、地域貢献できる場を</u> <u>求めている高齢者が多くいることから、地域におけるコーディネート機能</u>が課題 となっています。
  - (ク) 大規模震災等の災害時における地域の支え合いに関し不安を感じる高齢者が多くいることから、<u>災害時の迅速かつ円滑な避難の確保や、避難生活が長期化した場合のケア等の実施が課題となっています。</u>

### ② (仮称) 町田市障がい者福祉計画 21-26

- (ア) 障がい者数が毎年度増加しており、特に障がいをもつ児童・生徒数が増加していることから、学校卒業後の進路先の確保が課題となっています。
- (イ)障がい者の高齢化も進んでおり、高齢化、重度化や「親なきあと」に対応した支援が課題となっています。
- (ウ) 障がい者を対象としたアンケートでは、必要な支援を受けながら住み慣れた町田市で暮らし続けたい、自立した生活がしたい、仕事をしたい、働き続けたいという意見が多く挙げられており、<u>住み慣れた地域で、自立した生活をするための支</u>援が課題となっています。
- (エ) アンケートでは、44.7%の障がい者が、「障がいがあることを理由に差別(偏見を含む)を受けたことがある」と回答していることから、<u>障がい理解の促進・差別</u>の解消が課題となっています。
- (オ) 障がい者懇談会等では近年の自然災害の状況から、<u>災害時の要支援者対策</u>が課題 となっています。

### ③ 新・町田市子どもマスタープラン

- (ア) 地域全体での子育て支援の推進の強化が課題となっています。
- (イ) 就学前の保護者は「ホームページ」から情報を得ることが多く、保護者の年代が上がるにつれて「広報まちだ」から情報を得る傾向にあることから、若い世代の保護者ほど、市のホームページから情報を得ていることが多く、今後はさらに、調べやすく、わかりやすく情報を発信する必要があります。
- (ウ) アンケートでは、市の施策に期待することの上位に「子育てに係る費用に対する 経済的支援」「地域における子どもの居場所の充実」が入っていることから、子育 てに係る費用への経済的支援や、子どもの居場所の充実が課題となっています。

### ④ 第5次町田市保健医療計画

- (ア) 日本人の死亡原因の上位を占める、悪性新生物、心血管疾患等の予防として生活 習慣改善が引き続き重要である一方、30歳代までは自殺が死亡原因の1位となっ ています。健康づくりやこころの健康づくりに関する情報を効果的・効率的に発 信するなど、市民が自ら健康づくりに取り組めるよう支援を続ける必要がありま す。
- (イ) 急速な高齢化の進展により、在宅療養ニーズが高まっており、医療連携体制の整備や保健・医療・福祉の連携強化が求められています。
- (ウ) 東日本大震災、熊本地震の経験から、<u>復興まで被災者健康支援の受援を含む十分</u> な準備体制を構築する必要があります。

### (10) 困りごとの複雑化・複合化に関する相談支援機関へのヒアリング結果

- ① 8050 問題と言われる長期化したひきこもりの問題等の相談が、ここ数年で増えている 実感があり、対応が難しい案件もあります。
- ② 親が元気で経済力がある間は大きな問題にはならずに、親が認知症になる等で問題が 顕在化してくる案件もあり、今後親世代の高齢化に伴い、相談が増加する懸念があり ます。

### (11) タウンミーティング等での主な市民意見

2022年から始まる「(仮称) まちだ未来づくりビジョン2040」の策定にあたって、町田市では「なりたいまちの姿」への関心と同ビジョン策定に関わる実感を市民に持ってもらうために、「地区別意見交換会 (タウンミーティング)」や「大学生とのワークショップ」、「高校生とのワークショップ」、「無作為抽出型市民ワークショップ」を実施しました。タウンミーティング等では、地域福祉に関係する様々な意見もいただき、特に「つながり」、「交流」、「多世代」、「安心」、「居場所」に関する意見をいただきました。

### 【タウンミーティング等の概要】

タウンミーティング等	開催回数	話し合いの内容
地区別意見交換会(タウンミーティング)	10地区ごとに 1 回	住みたい(なりたい)まちの未来
大学生とのワークショップ	全1回	住みたい(なりたい)まちの未来
高校生とのワークショップ	全8回	目指すまちの姿(なりたいまちの姿)
無作為抽出型市民ワークショップ	全6回	参加者各々が考える「2040なりたい未来」

### 【地区別意見交換会(タウンミーティング)の主な意見】

	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	主な「住みたい(なりたい)まちの未来」に関する意見
つながりづくり・交流	●緑の中で人と人がつながるまち(鶴川)
	●地域の「輪」を強めて皆で子育てできるまち(高ヶ坂・成瀬)
	●顔が見える、つながりと交流のまち(木曽)
	●町田の良さを活かした、人と人とがつながれるまち(玉川学園・南大谷)
	●多様な世代がマッチングできて関わり合えるまち全体が大家族(町田第
夕卅少	<del>-</del> )
多世代	●世代も地域もボーダレスなまち(小山)
	●多世代が応援するワイルドな子育てができるまち(南)
安心	●何でもありでなく、子どもが安心して出かけられるまち(町田第一)
	●安心できるつながりのある帰ってきたくなるまち(忠生)
居場所	●大人も子どもも居場所があるまち(小山)
	●子どもが活動できる場所が多いまち(忠生)

### 【大学生とのワークショップの主な意見】

	主な「住みたい(なりたい)まちの未来」に関する意見
つながりづくり・交流 ●人と人、場所と場所のつながりが濃いまち	
安心	●町田のほこり3A (あんしん、あんぜん、あったかい)

### 【高校生とのワークショップの主な意見】

	主な「目指すまちの姿(なりたいまちの姿)」に関する意見
つながりづくり・交流	●いろいろな学べる場所、人との触れ合いの機会があるまち
安心	●地域の見守りと、やりたいことができる環境/知識に触れられる環境があるまち
居場所	●いろいろな学べる場所、人との触れ合いの機会があるまち

### 【無作為抽出型市民ワークショップの主な意見】

	主な「参加者各々が考える「2040なりたい未来」に関する意見
つながりづくり・交流	<ul><li>●つながりが家族を越える、多様性と笑顔にあふれたまち</li><li>●家族をこえたつながりがつくるみんなにやさしいまち</li><li>●集まれ つながれ 育むまちだ</li><li>●つながりがたのしいまちだ</li></ul>
多世代	●スポーツ、文化、芸術全世代参加型「遊好都市」町田

### (12) 相談機関アンケートでの主な意見

- ①本人・家族が経済状況、疾患や障がい等によりサービス利用の必要性を理解・受容できない。複数の課題を抱える世帯も多く、支援者側が分野(高齢・障がい・こどもなど)毎に分かれてしまう。制度やしくみも異なるため、関係者間での連携の難しさもある。地域を包括的にみてワンストップの窓口・機関があるとよいという住民からの意見も多い。
- ②客観的に福祉サービス等の利用が必要と考えられる状態にあっても、利用につながるためには本人の動機が育まれる必要があります。また、本人に困ったという自覚や動機があったとしても、それをどこに、どのように発信すればよいのか、情報を持っていない場合もあります。福祉サービス等の何らかの支援が必要と思われる方を把握して見守り、徐々に関係をつくり、動機を育む支援の仕組みが必要だと考えます。また、相談窓口へつながる多様な経路の確立とそれらの情報提供、啓発が欠かせないと考えます。
- ③サービス利用に結び付いていない人は以下の人が多いため、身近な支援者が必要(公的にも民間でも)であり、早期発見早期対応ができるとよい。
  - ・情報収集ができない、行動に移せない、支援者がいない
  - ・本人が必要と感じていない
  - ・余裕(時間的に)がない
  - ・ 孤立している